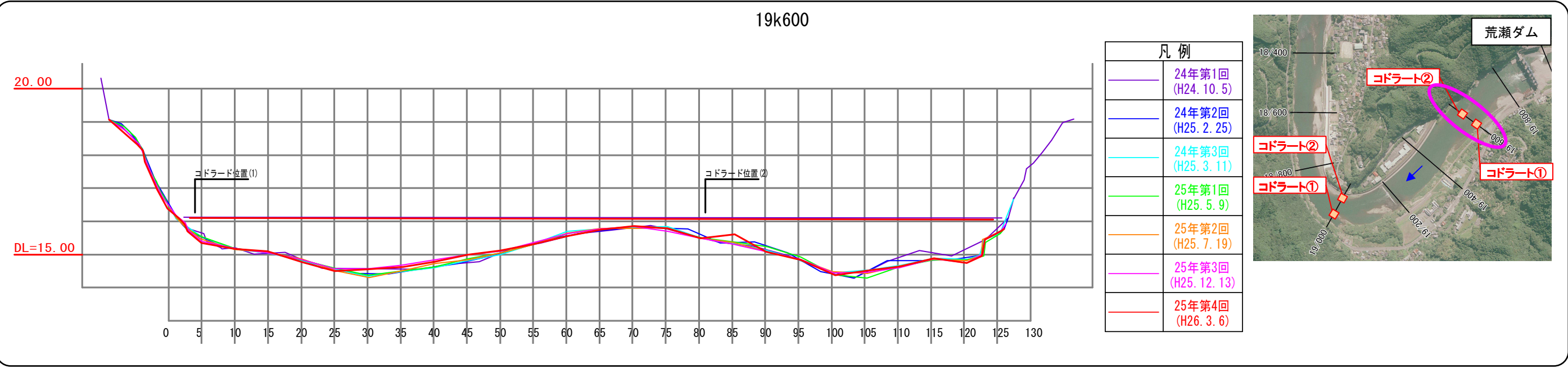
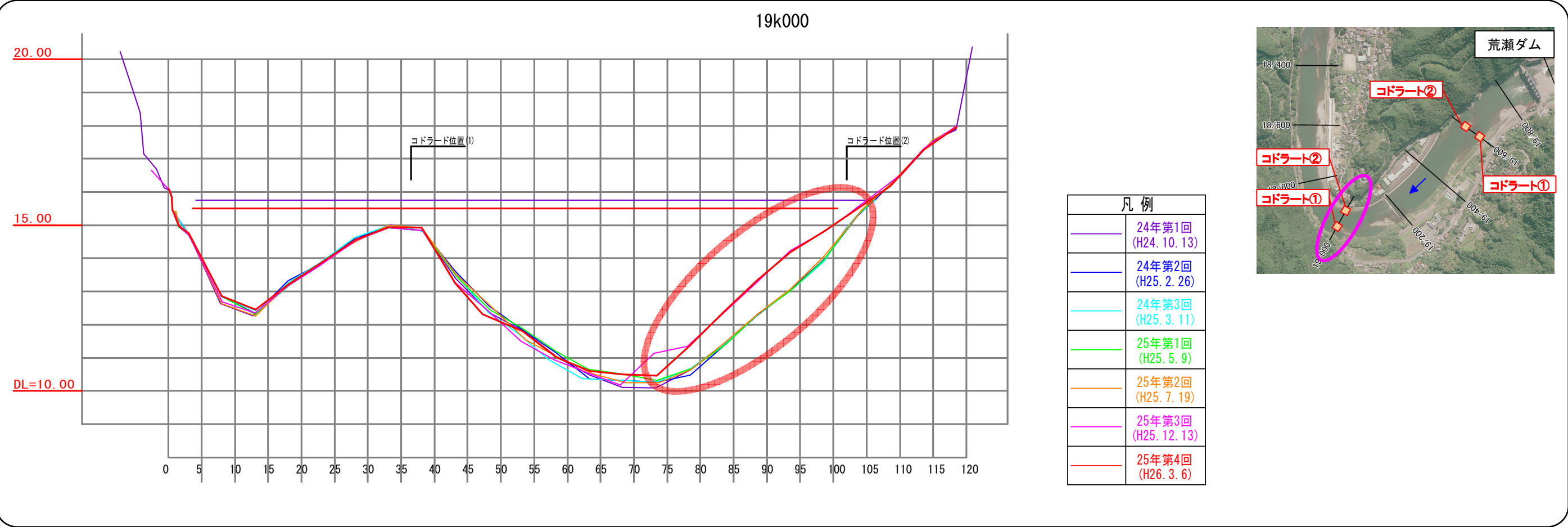


1 2) 物理環境の定期モニタリング

【荒瀬ダム下流における物理環境（横断形状）の変化の概要】

【参考資料 I - 225 頁参照】

評価項目	視点	平成 25 年度の調査結果概要
出水前後や工事実施前後の変化状況	出水や荒瀬ダム撤去関連工事(水位低下装置等)の影響把握	・平成 26 年 3 月の横断形状では、19k0 の右岸で堆積傾向が認められる。



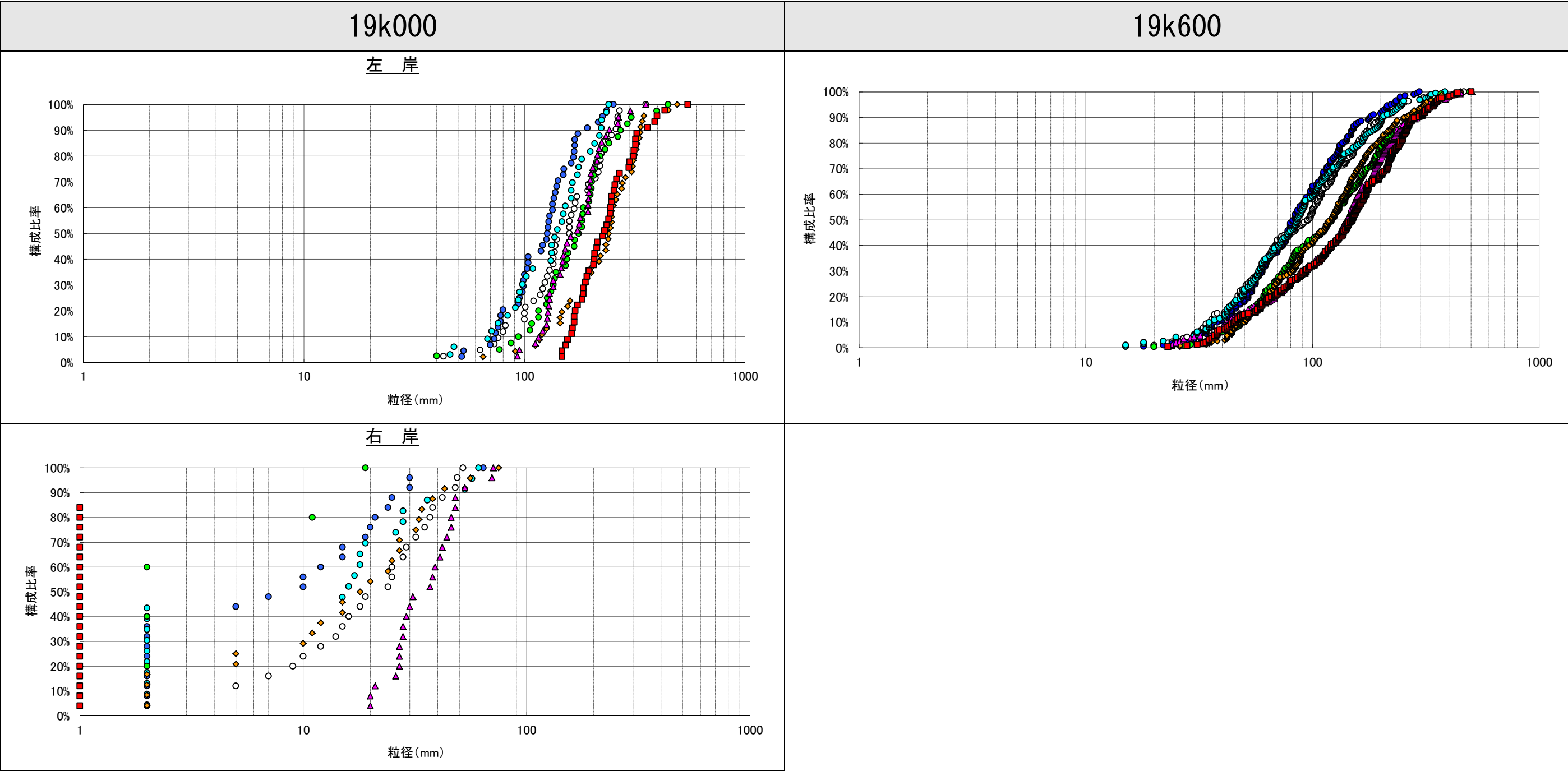
【荒瀬ダム下流における物理環境（河床材料）の変化の概要】

【参考資料Ⅰ－227 頁参照】

● 線格子法

評価項目	視点	平成 25 年度の調査結果概要
出水前後や工事実施前後の変化状況	出水や荒瀬ダム撤去関連工事(水位低下装置等)の影響把握 【横断線上全体の粒径変化の概要把握】	・平成 25 年度は、ダム直下流の 19 k 6 及び蛇行部外岸側の 19 k 0 左岸で少し粗粒化が認められる。 ・蛇行部内岸側の 19 k 0 右岸では、平成 26 年 3 月に顕著な細粒化の傾向が認められる。

○H24.10.5 ●H25.2.25 ●H25.3.11 ●H25.5.9 ◆H25.7.19 ▲H25.12.13 ■H26.3.6



● 面積格子法

【参考資料 I -225 頁参照】

評価項目	視点	平成 25 年度の調査結果概要	評価概要
出水前後や工事実施前後の変化状況	出水や荒瀬ダム撤去関連工事(水位低下装置等)の影響把握 【左岸及び右岸の水際における粒径変化の詳細把握】	・平成 25 年 7 月以降、細粒化の傾向が認められる。特に、蛇行部の内岸側に位置する 19k0 右岸の面積格子法によるデータで細粒化が著しい。	・水位低下装置の設置による水位低下でダム直下流の流心部の流速が増加し、全体的には粗粒化したと思われる(線格子法)。しかし、水際(特に蛇行部の内岸側の水際)では流速が低下するため、ダム上流から流出した土砂が堆積し、細粒化したと思われる(面積格子法)。

○H24.10.5 ●H25.2.25 ●H25.3.11 ●H25.5.9 ◆H25.7.19 ▲H25.12.13 ■H26.3.6

